

国際産学連携拠点に関する検討会 中間整理(概要)

- 浜通りにイノベーションを興し、新たな産業基盤を構築するためには、学術的基盤の整備と世代を超えて様々な研究者や技術者を育成し、輩出された人材が、長期にわたり浜通りの復興をリードしていく体制の整備が必要。
- このため、イノベーション・コースト構想では、国際産学連携拠点(①産学官共同研究室、②大学教育拠点、③技術者研修拠点、④情報発信拠点)の整備が必要としており、具体化の内容や今後の取組・検討の方向性は以下のとおり。

①国内外研究機関のための国際的な産学官共同研究室

- ロボット技術開発のための共同研究施設の整備
 - ・ 先進的な工作機械、ロボット試験設備等共同利用設備を整備
 - ・ 産学官の技術者・研究者の交流・技術指導等を推進
 - ・ 地元企業や、福島県ハイテクプラザとの緊密な連携
- 多様な研究分野を対象とした先端的な共同研究施設の整備
 - ・ 放射線の知識が必要な廃炉、環境回復等多様な分野を研究
 - ・ 最先端の共同利用設備を整備
- 上記研究施設の研究テーマの研究開発・産学連携の支援強化、インキュベーション機能の強化

②大学教育拠点

- 廃炉国際共同研究センターでの人材育成等の取組を通じて、本格的な大学教育拠点構築に向けての課題等の把握・分析を実施
 - ・ 本格的な大学教育拠点については、立地場所等改めて検討
- 左記の多様な研究分野を対象とした先端的な共同研究施設を起点にして構築し、拠点機能の強化、研究分野の裾野を拡大
 - ・ 企業、研究機関、高専や初等中等教育との連携強化
 - ・ 廃炉、環境回復、放射線医学、農林水産業以外の分野にも拡大
 - ・ 中期的に、連携大学院や共同大学院等を構築
- 長期的に大学(学部)等の高等教育拠点の構築を目指す

③廃炉人材等の育成を目的とした技術者研修拠点

- 廃炉人材等育成や防災研修が技術者研修拠点の主な対象候補
 - ・ 長期的に廃炉に携わる技術者の計画的・継続的確保の必要性
 - ・ 防災研修については、自主保安等の関係で、民間企業の利用ニーズが存在。公的機関の利用ニーズについて見極めが必要
- 更なる具体化に向けて、民間企業等の主体による検討を開始予定
- 国においても、これらの民間企業等による検討結果の報告を受け、技術者研修拠点の更なる具体化を推進

④原子力災害の教訓等を継承等するための情報発信拠点

- 福島県庁から提案のあった、情報発信拠点のミッションの、①情報発信・展示・交流(展示・交流エリア)、②記録や資料の収集・保存(資料エリア)、③調査・研究(研究エリア)をベースに検討
- 福島県において、研究会を立ち上げ、情報発信拠点の具体的な姿について検討
- 国においても、福島県での検討結果の提案を受け、福島県や東京電力等との連携や機能分担にも配慮しながら、具体化を推進

◆拠点間や企業との連携等を担うコーディネート機能強化

- 北九州学研都市においては、北九州産業学術推進機構(FAIS)が、①研究・教育機能のコーディネート、②研究成果の実用化支援、③地域企業の新事業創出支援の3つの役割を担う。
- 浜通りにおけるFAISのような主体の具体化に向け、国と福島県で検討を行う。

◆多様な主体によるイノベーション・コースト構想の具体化

- 福島県ハイテクプラザの分所の浜通りへの設置を検討
- 大学(東北大学、福島大学、会津大学)の取組
 - ・ 国における支援を前提に、福島浜通りサテライトを設置を検討
- 福島工業高等専門学校、初等中等教育の取組
 - ・ 国際産学連携拠点への進出大学、研究所等との連携協定締結
 - ・ イノベーション・コースト構想に対応し得る人材の育成